

【子どもの気持ちを認めること】

『子どもは各自、自分のプログラムを持っていて、それに沿って成長していきます。』とモンテッソーリ女史は言っています。

確かに一人ひとり時期は多少ずれているものの、同じように興味を示したり、発達を遂げているのがわかります。

そのプログラムに加えて、大人が子どもの成長の手助けをしていくといいのですが、その時のポイントは『子どもの育ちを妨げないように、必要なところだけ手伝う』のがモンテッソーリの観点です。

「子どもには大人とは違う時間が流れている」からこそ、興味を持ったものにはじっくり時間をかけて向き合ってもらいたいものです。

そこで、ぜひ皆さんにやっていただきたいことがあります。

それは、子どもが何かに集中している時に「何してるの〜？」とか「それ上手だね」などと声を掛けたりしない、ということです。

それが遊びであっても、何かをじっと見ている時でも、そっと観察してみてください。

子どもはそれが終わると（十分満たされると）満足して次のことに興味移ります。

その『十分に出来た』という気持ちの積み重ねが、集中力を高めたり、自信にも繋がります。

この満足感は本当に大事なことです！

もちろん子どもの方から「見て〜！」とか「これどうやるの？」と聞かれた時には答えてあげます。

でもそれ以外は静かに没頭させてあげるのも必要です。

モンテッソーリは『子どもには自ら学び、育つ力がある』と言っていますが、子どもの育ちを『待つ』ことは、とても大切なことです。

ただ、生活の中では（特に朝などは）そんなこと言ってもらえない、時と場合もありますよね…(笑)つまりいつでも必ず子どもの言うこと（要求）を聞いてもらえない時もある、ということです。

よく『子どもの気持ちに寄り添う』と言いますが、それは子どもの気持ちを「そうだね」「出来たね」などと言って認めることで、決して『子どものワガママに付き合う』ことではないです。

じっくり遊べない時や没頭させてあげる時間がない時は、「今は〇〇だから出来ないんだ」と説明することが必要です。

なぜ今は出来ないのか伝え、納得せず大泣きしたとしても、『ダメな時はダメ』とはっきり毅然と言うのも大切です。

『諦める』経験をするのも大切ですし、大人が思うよりも、子どもはその場が終われば意外にケロッとしていて引きずりません。

それが子どものいいところですね。

そしてもし出来ることなら、「帰りにやろうね」とか「今度ここに来たらしようね」と約束し、本当にその時がきたら「この前やるって言ってたね」と実現（約束を守る）するのもいいと思います。

子どもの成長を助けるって、一言では難しいこともあります。楽しいですよ！

自分（大人）も成長しますしね。

認めながら、成長を楽しみながら、一緒に育ち合いましょう！

（加賀谷）